

## 3章 現庁舎地利活用について

### 1 現庁舎地の利活用の検討に当たって

本庁舎移転後の現庁舎地については、大半の窓口業務等を担い、最も身近な市民サービスの拠点である浦和区役所や浦和消防署の機能を残しつつ、浦和の歴史や地域のまちづくりの状況等を踏まえた新たな利活用を行うことで、市民にとってより良い場所となるよう検討を進めていきます。

### 2 浦和（現庁舎地周辺）の歴史

#### (1) 明治以前

江戸時代、五街道の一つである中山道の宿場町となり、現在の常盤に浦和宿の本陣・脇本陣が置かれ、また毎月二と七のつく日に市が開かれる「二・七の市」が盛んになるなど、町場としての体裁が整っていました。

明治時代になると、この地域は武蔵県、大宮県を経て、明治2年に浦和県となり、県庁が置かれました。さらに廃藩置県後、浦和県は岩槻県、<sup>おしげん</sup>忍県、<sup>こすげけん</sup>小菅県などと合併し埼玉県が設置され、浦和はその県庁所在地となり、それから約150年が経過した現在も、県都としての道を歩み続けています。

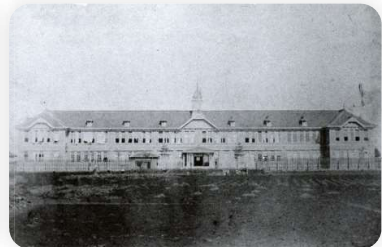
明治6年、教員養成機関として学制改正局（埼玉大学教育学部の前身）が浦和宿本陣内に置かれ、翌年には埼玉県師範学校と改称されました。また、明治9年には埼玉県医学校が開校されました。さらには、埼玉県第一尋常中学校（現県立浦和高等学校）、埼玉県高等女学校（現浦和第一女子高等学校）、官立浦和高等学校（戦後埼玉大学文理学部に改組）などが次々と開校され教育施設の充実が進むと、全国から優れた学生が浦和に集まるようになり、行政の中心という特性とともに、文教のまちとしての特性も形作られていきました。



▲支稯路ノ駅浦和宿浅間山遠望（英泉）  
出典：埼玉県立歴史と民俗の博物館資料



▲埼玉県庁  
（埼玉県写真帖／昭和9年発行）  
出典：市アーカイブズセンターホームページ



▲埼玉県師範学校鯛ヶ窪校舎  
出典：市アーカイブズセンターホームページ

## (2) 大正から昭和

関東大震災によって、東京や横浜は壊滅的な被害を受けましたが、台地の南端に位置する当時の浦和町は倒壊家屋も少なく、東京至近の割には被害が小さかったようです。そのため大震災で被災した東京や横浜の文化人が、人々の往来が盛んだが落ち着いた雰囲気を残し、別荘地や住宅地として人気上がりつつあった浦和に移住し、住居やアトリエを官公庁からはやや離れた鹿島台（現在の県庁西側から別所沼にかけての地域）に構えました。昭和初期には、洋画家 高田誠を始めとする数多くの文化人が創作活動を行い、「鎌倉文士と浦和絵描き」とも称されました。

昭和7年、省線電車（現京浜東北線）が整備されると、都市化に伴う人口の流入が著しくなり、昭和9年2月には人口約4万3千人となり、市制施行に至りました。長い間、市制を敷いていない県庁所在地でしたが、これによって新しい時代を迎えることとなりました。

戦後は、日本の高度経済成長とともに、大規模な団地などが建設され、東京への通勤者の激増により、東京の衛星都市としての性格を強める一方、県都としての基盤整備が着実に進められていくことになりました。また、9号国道（現国道17号）の開通など道路交通網の整備により、都市化の勢いは駅周辺から郊外まで広がりを見せることになりました。

昭和40年代に入り、新大宮バイパスや武蔵野線などの開通により、交通網や都市施設の整備が一段と進みました。また、旧中山道を中心とした商店街やオフィス街なども近代的なビル街に様変わりし、商業活動の面でも活発化していきました。

昭和46年1月、仲町にあった浦和市役所が埼玉大学教育学部跡地である常盤の現在地に移転、昭和51年2月には新市庁舎が完成し、移転前にあった機能の分散が解消されました。また、市民等の文化活動の拠点として、昭和41年には埼玉会館の建替（旧館は大正15年竣工）がなされるとともに、昭和46年2月にはホールやコンサート室等を備えた市民会館が開館しました。

浦和に県庁が置かれて約一世紀の昭和56年4月、浦和駅西口の改造が完了し、新しい浦和の玄関が完成しました。また、昭和60年には西部地域に埼京線が開通し、武蔵浦和駅、中浦和駅の2駅が開設され、市域の鉄道交通の利便性が増しました。



▲高田誠 モザイク壁画



▲埼玉会館



左：現在  
出典：埼玉会館ホームページ

右：旧館（埼玉県写真帖／昭和9年発行）  
出典：市アーカイブズセンターホームページ

### (3) 平成から令和

平成12年9月に浦和市・大宮市・与野市による合併協定調印式が行われ、平成13年5月にさいたま市が誕生し、平成15年4月には政令指定都市へと移行しました。

その後、浦和駅東口周辺の再開発事業による複合施設や駅前広場の整備、浦和駅の高架化、田島大牧線を始めとする周辺街路の整備などの都市基盤整備が進められ、また、浦和駅西口南高砂地区に市民会館の機能を有する複合施設の整備が予定されているなど、駅周辺を中心としたにぎわいと回遊性の更なる向上を図っています。

また、浦和は「サッカーのまち」として、埼玉サッカーの発祥である埼玉県師範学校及び卒業生の活躍、昭和20年～50年代にかけては浦和高校、浦和西高校、浦和市立高校、浦和市立南高校が次々と全国大会で優勝を遂げ、その名を全国に轟かせました。さらに、Jリーグの発足後、浦和レッドダイヤモンズのホームタウンとなり、サポーターの熱狂的な応援でも知られています。



▲浦和駅東口 複合公共施設コムナーレ



▲埼玉サッカー発祥の地 記念碑

#### 【引用・参考文献】

- ・さいたま市『さいたま市誕生 浦和市・大宮市・与野市合併の記録』,2001,p5-7
- ・浦和市『わがまち浦和 地域別案内（改定版）』,1992,p1-53
- ・浦和市『図説 浦和のあゆみ』,1993,p153-238

## 3 現庁舎地周辺の地域特性等

### (1) まちの成り立ち

現庁舎地は、「鎌倉文士と浦和絵描き」と称される由縁となった地域の中に位置し、埼玉県師範学校等が立地するなど、文化・芸術や教育分野において、歴史のある文教都市を象徴する場所であり、周辺には現在もうらわ美術館や埼玉県立近代美術館、埼玉大学附属小・中学校など、数多くの文化・教育施設が集積しています。

また、現在の埼玉県発足後、約150年にわたって県庁所在地であり続けた歴史から、県都としての誇りがある地域でもあります。

### (2) 現在の地域特性

現庁舎地周辺は主に住居系の地域が占め、閑静な住宅地が広がり、別所沼を臨む高台には高級住宅街が形成されています。また、別所沼公園や北浦和公園など、安らぎを感じられる空間とも近接しています。

現庁舎地は行政機能だけではなく、本庁舎東側広場など、四季にわたって市民の憩いの場となっています。また、洋画家 高田誠のモザイク作品を広く市民に公開するなど、文化芸術を楽しむ場ともなっています。

### (3) 都市イメージ

現庁舎地が所在する浦和区においては、交通の利便性が高いこともあって、人口・世帯数が増加傾向にあり、近年は、民間の調査において、浦和は住みたいまち、住みやすいまち、子育てがしやすいまちなどとして評価を得ています。

また、地域資源であるうなぎや、サッカークラブなどが幅広く市民に愛されています。

## 4 基本理念及び目指すべき方向性

本市の都市づくりの考え方や地域特性等を踏まえ、現庁舎地の利活用に当たっての基本理念及び目指すべき方向性は次のとおりとします。

### 基本理念

#### (1) 「県都」「文教都市」を象徴する

- ・ 現在の埼玉県発足後、県庁所在地としてあり続けた歴史を踏まえた、地域の誇りを大切にします。
- ・ 関東大震災後に文化人や芸術家等が移住した歴史や、埼玉県師範学校や埼玉県高等女学校が立地するなど、古くから文化、教育の先進地であった歴史を踏まえ、今後も文教都市としての地域を象徴するものとします。

#### (2) まちづくりに貢献する

- ・ さいたま市総合振興計画 基本計画の「浦和駅周辺地区」の目指す方向性として示されている“洗練された伝統と感性豊かな文化が息づく、風格で魅了する都心地区”等の形成に寄与し、地区の機能強化や回遊性向上、地域経済の活性化等に資するものとする。こと、**「大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区」**とあわせ、本市の顔となる「都心」の形成・発展に貢献するものとします。
- ・ (仮称) 浦和駅周辺まちづくりビジョンで検討を進めている、浦和駅周辺の魅力・価値の維持・継承や更なる発展等による、浦和らしい風格ある都市づくりに貢献するものとします。また、**まちの将来像の実現を目指した取組の一環として、周辺のまちづくりと連携し、一体となったもの**とします。

#### (3) 豊かな生活につながる

- ・ 本市の将来を担う子どもや若い世代を含め、幅広い市民の憩いの場・交流の場を提供する空間とします。
- ・ 潤いのある豊かな生活を生み出し、**自らが暮らすまちに誇りを感じる**ことができる空間とします。

#### (4) 本市の更なる飛躍につながる

- ・ 日本を代表する都市としての更なる飛躍に向け、**市内外から人を呼び込む**とともに、**グローバルな視点と先進性を有するもの**とします。

### 目指すべき方向性

基本理念を踏まえ、「**多様な世代に愛され、県都・文教都市にふさわしい感性豊かな場所**とすること」を目指すべき方向性とします。

## 5 利活用の考え方

現庁舎地の利活用の考え方として、市民サービスの拠点である浦和区役所や浦和消防署の機能を残しつつ、基本理念及び目指すべき方向性を踏まえ、次の各機能を基本に検討を具体化していきます。

また、掲げた機能を全て満たすものではなく、単独や複合化による配置、サービスの向上や財政負担軽減等のための民間活力の導入や民間施設等の誘致も視野に入れ、検討を進めます。なお、現庁舎（本館）は、本庁機能移転後に解体撤去することを基本とします。

### (1) 文化芸術機能

#### 想定される具体的な機能

- ①本市の歴史、文化、さらには、自然、科学などの未来へのポテンシャルが高い事項について、来館者が幅広く知識に触れ合い、吸収できる機能
- ②ジャンルや世代に捉われない多様な文化芸術についての創造・発信機能
- ③芸術文化活動への支援・人材育成機能

#### 【参考】利活用のイメージ（1）文化芸術機能

##### ▼国内外の現代美術に触れられる美術館



金沢 21 世紀美術館（石川県金沢市）  
提供：金沢 21 世紀美術館

##### ▼誰もが楽しみながら科学に親しめる総合科学館



名古屋市科学館（愛知県名古屋市）  
提供：名古屋市科学館

##### ▼美術館、芸術劇場、文化情報センターなどが複合化し、芸術文化活動の推進拠点となる施設



愛知芸術文化センター（愛知県名古屋市）  
提供：愛知芸術文化センター（写真左：愛知県芸術劇場コンサートホール、写真右：アートライブラリー）

##### ▼音楽・舞踊・演劇等の多様な文化芸術の活動拠点となる施設



札幌市教育文化会館（北海道札幌市）  
出典：札幌市教育文化会館ホームページ

## (2) 教育・先進研究機能

## 想定される具体的な機能

- ①グローバル人材を育成するため、多言語・多文化環境において、世界中の留学生などと共に学ぶ研究機能
- ②世界に誇る技術をもつ市内企業と国内外の大学が連携・協働し、AI\*やICT\*などを活用し、最先端技術の研究を行う研究開発機能
- ③イノベーション\*機能（インキュベーション\*機能含む）
- ④医療（スポーツ医科学等）に関する教育・研究機能
- ⑤企業の先進的な研究や専門的なスポーツ科学等について、市民の学びにつながる機能
- ⑥生涯にわたって学びを続けられる機能

## 【参考】利活用のイメージ（2）教育・先進研究機能

▼世界中から研究者・学生が集まる  
グローバルな研究拠点

国連大学（東京都渋谷区）  
出典：国連大学ホームページ  
（写真：学術会議等に利用される国際会議場）

▼国内外の先端企業も入居するオフィス棟や  
交流棟を有する施設

スマートシティAICT（福島県会津若松市）  
出典：パナソニック株式会社ホームページ

▼事業改革や新規事業創出に特化した  
インキュベーション施設

ARCH 虎ノ門ヒルズインキュベーションセンター  
（東京都港区）  
出典：ARCH 虎ノ門ヒルズインキュベーションセンター  
ホームページ

## ▼スポーツ医科学研究の中核機関



国立スポーツ科学センター（東京都北区）  
出典：国立スポーツ科学センターホームページ

## ▼最先端の研究施設と複合体験施設の併設



資生堂グローバルイノベーションセンター  
（神奈川県横浜市）  
出典：資生堂グローバルイノベーションセンターホームページ

### (3) 市民交流機能

#### 想定される具体的な機能

- ① 広場・緑地などオープンスペース等を活かした、市民のコミュニティ形成や、健康でゆとりあるライフスタイルの形成につながる機能
- ② 集客施設との併設による交流スペースの整備など、施設を介した交流の場、市民参画の場となる機能
- ③ 子どもから大人まで幅広い市民が多世代で交流できる機能

#### 【参考】利活用のイメージ (3) 市民交流機能

##### ▼市民の活動空間として多様なイベントが開催される屋根付き広場



アオーレ長岡（新潟県長岡市）  
出典：一般社団法人長岡観光コンベンション協会ホームページ

##### ▼憩いやにぎわいの場となる庁舎前のオープンスペース



Mina さかい（大阪府堺市）  
出典：堺市ホームページ

##### ▼カフェと一体となった公園



南池袋公園（東京都豊島区）  
提供：株式会社 nest



【参考】利活用のイメージ（1）～（3）の複合的な機能

▼劇場やイベント空間となるパークプラザ等の複合

文 市



Hareza 池袋（東京都豊島区）

（左）提供：harevutai

（右）提供：Hareza 池袋



▼図書館や地域交流センター等の複合

教 市



オガールプラザ（岩手県紫波町）

提供：オガール企画合同会社

▼ホールや図書情報館、広場等の複合

文 教 市



中心市街地拠点施設アンフォーレ（愛知県安城市）

提供：アンフォーレホームページ

▼ミュージアムやスタートアップオフィス、広場等の複合

文 教 市



グリーンスプリングス（東京都立川市）

（左）

画像提供：PLAY! (PLAY! MUSEUM 「ぐりとぐら しあわせの本」展 会場写真)

（中央）

画像提供：TOKYO 創業ステーション TAMA

（右）

画像提供：株式会社立飛ストラテジーラボ

▼ミュージアムや図書館、テラス等の複合

文 教 市



ところざわサクラタウン（埼玉県所沢市）

提供：角川武蔵野ミュージアム

## 6 配慮すべき事項

利活用の具体化の過程において配慮すべき事項を次のとおり列挙します。

### ①環境への配慮

- ・ 環境に最大限配慮した脱炭素化など
- ・ 周辺の土地利用への配慮や周辺環境と調和した景観形成など

### ②防災への配慮

- ・ オープンスペースの確保、緊急避難場所など
- ・ 災害時には滞在スペースに転用できる空間や備蓄等の確保など

### ③地区交通への配慮

- ・ アクセス道路や渋滞緩和など
- ・ 回遊性の向上に資する交通アクセスの検討など

## 7 今後の進め方

新庁舎竣工・移転後速やかに利活用に向けた整備等を行うことを想定し、以下のスケジュールを基本として検討を進めていきます。なお、検討を具体化する過程で適宜精査していきます。また、全体の利活用の検討と併せ、機能移転後の消防庁舎や第二別館等の空きスペースの利活用等についても検討していきます。なお、現庁舎（本館）は、本庁機能移転後に解体撤去することを基本とします。

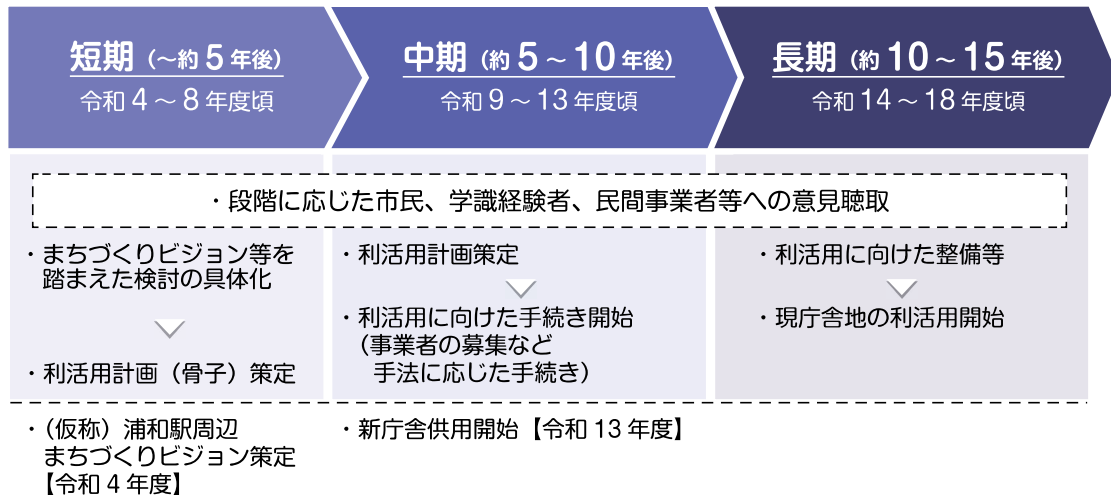
短期には、本構想を基本として、（仮称）浦和駅周辺まちづくりビジョンで示すまちの将来像や、その実現に向けたまちづくりの展開等を踏まえながら、現庁舎地の利活用に係る条件や検討の進め方の整理等を行いつつ、利活用の一定の方向性をとりまとめた利活用計画の骨子を策定します。

中期には、導入する機能や事業手法等の具体化を図り、利活用計画を策定するとともに、事業手法に応じた手続等を進めます。

長期には利活用に向けた整備等を行い、利活用を開始していきます。また、各段階で市民の皆様から積極的に御意見を伺うとともに、学識経験者や民間事業者等の専門的な知見を有する方々への意見聴取も実施していきます。

現庁舎地の利活用は、本市の都市づくりにおける重要かつ長期的なプロジェクトであり、市民の皆様を始めとする多くの方々から御意見をいただきながら、地域のまちづくりの状況や社会情勢等を適切に反映し検討を進めていきます。

### 現庁舎地の利活用に向けた概略スケジュール



※他事例等をもとに公募型プロポーザル、PFI\*、従来方式のそれぞれの場合に一般的に想定される手続きを検討した。

※公募型プロポーザルの場合、現庁舎の解体撤去を含めた契約の締結も可能なスケジュールを想定。

※従来方式、PFI\*の場合、現庁舎を解体撤去する際は別途契約を締結するスケジュールを想定。